

第16回「山」の講演会 報告

文責：R7年3月22日 仙石 富英

- ・実施日時：令和7年3月22日 14：00～16：00
- ・会場：栃木県青年会館 大ホール
- ・講師：栃木県立博物館名誉学芸員 柏村 祐司 氏
- ・題目：「ふる里栃木の山の信仰と暮らしを尋ねて」

今年度の「山」の講演会は、元会員でもある柏村祐司氏にお願いし、日光、那須の山について信仰と暮らしの面から講演が行われた。当初、会場は青年会館小ホールで予約していたが、大ホールに変更して行われ、90余名の参加者があり、ここ数年の参加者数では規模の大きい講演会となった。ただ、参加者は柏村講師のお声かけで参加された県博物館友の会や県内の歴史、民俗に興味のある方々が多く、当会会員、後援の県山岳連盟関係者の参加者が少なかった。開催の広報としては、新聞（下野他3紙）掲載依頼、会場にも開催のチラシ（50部）を置いていたが、残部も多く、広報面での周知が課題と思われた。

講演内容は、大きく2つに分けられ、①、栃木の山の信仰（修験者による信仰～日光修験、在俗信者による霊山登拝）、②、山の暮らしと山の信仰（足尾山地での林業と信仰、山の神信仰）について、それぞれ、①では、勝道上人の男体山開山から、熊野三山信仰、日光修験の三峯五禅頂の峰修行と変革・衰退。在俗信者の男体山登拝、男体山、那須での出羽三山信仰（湯殿山、白湯山信仰・高湯山信仰）について、講話が行われ、男体山・女峰山・太郎山の位置づけ、茶臼岳・朝日岳の位置づけ、南月山の名前の由来等の説明があった。②では、足尾での林業と信仰、鹿沼市草久の山の神の話、日光市栗山地区での山仕事と信仰について、地域で山と信仰について生活と結びついた内容の説明があった。

最後に県内の山の現状についてトイレ問題、SDG's等での課題等、我々、山の関係団体としての課題でもある事案について、会場参加者への問いかけが行われ、散会となった。

その後の懇親会では、講演内容の補足や歓談が行われ、旧交が温められた。



柏村祐司先生



講演の様子



聴衆者からの質問